

認定番号：52 サポーター名：洪水予測データ活用型流域治水共同研究メンバー
(東京大学・名古屋大学・京都大学・JAXA・あいおいニッセイ同和損保)

取組実績

●令和6年10月25日、東京大学柏キャンパスでJST未来社会創造事業シンポジウム「洪水を災害にさせない社会の実現に向けて」開催。洪水予測技術の革新、洪水時の適時適切な情報伝達、洪水に対する社会対応力の強化、という流域治水の具体策をテーマとして発表、議論。同シンポジウムのフライヤーに流域治水ロゴ掲載

(<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/event/kashiwa/opencampus2024/>)

JST未来社会創造事業シンポジウム

洪水を災害にさせない社会の実現に向けて

温暖化による極端降水の増加に伴い、堤防やダムなどのハード的な洪水対策が追いつかない状況が続いています。このため、予測技術を活用した新たな洪水対策が求められており、日本では昨年度に気象業務法が改正され、洪水予報の規制が緩和されました。また、国連の「Early Warnings for All」イニシアチブにも対応した動きが世界中で進行中です。

本シンポジウムでは、「洪水予測技術の革新」、「洪水時の適時適切な情報伝達」、「洪水に対する社会対応力の強化」の三つの研究開発課題に焦点を当て、これらに関する最新の研究と今後の方向性について議論します。

聴講
無料

12:00

パネルディスカッション

・第一部：予測技術と気象制御との関わり

パネリスト 研究開発項目1及び研究開発項目2の講演者に加え
横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授 満行 泰河 氏
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 担当次長 多嘉良 朝恭 氏
災害モンスター研究所 所長 石橋 健次 氏

・第二部：自治体における社会対応力強化

パネリスト 研究開発項目3の講演者に加え
同志社大学 大学院司法研究科 准教授 重本 達哉 氏

12:50

閉会挨拶

13:00
閉会

・東京大学 生産技術研究所 所長 年吉 洋 氏 (オンライン)



●令和6年11月12日、埼玉大学産学官連携協議会による活動の一環として開催された「防災DX研究会セミナー」にサポーターが登壇。被災直後の情報空白期を打破する取り組みとして、住民参加型防災という流域治水を提唱。当日の発表資料の表紙に流域治水ロゴ掲載

(https://www.saitama-u.ac.jp/research/topics/archives/20241112_BSDX.html)